

2018年度関西学生バスケットボールリーグ戦

男子	入替戦	勝チーム		敗チーム
試合日	2018.11.10			
開始時間	17:20			
会場	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス			
コート	M コート			
試合NO	809			

戰評

【総括】
1部2部リーグ入替戦、1部リーグ8位通過で残留をかけ何としても1勝を得たい流通科学大学と、1部リーグ昇格を目指し現在勢いに乗っている2部リーグ3位通過の甲南大学のカードとなった。お互いに一歩も引けない両チームは積極的にシュートを決めていくが、前半はやや流科大ペースでゲームが展開される。それでいても流科大のペースに必死に食らいつく甲南大であったが、第3ピリオドでは一気に点差が広がってしまう。終始流科大が主導権を握りこのままの流れが続くと思われたが、最終ピリオド開始から甲南大のシュートが連続で成功し、25点もあった点差は同点になり一時は甲南大リードとなる。試合終了間近はファウルが続き流科大にとっては苦しい展開のなか、残り3秒でシュートが決まり80-79で流科大が勝利を収めた。どちらが勝ってもおかしくない白熱とした展開が繰り広げられた一戦であった。

一戦であつた
【第1ピリオド】

先制点を獲得したのは流科大#32高田。開始早々から速い展開の中、両チーム気迫あふれるプレーでお互いに一歩も譲らない。#24藤井の活躍により、流科大との点差を離さない甲南大であったが開始5分を過ぎたころから流科大#32高田、#40大杉のバスケットカウントにより徐々に点差が広がる。たまらず甲南大はタイムアウトを要求し、立て直しをはかる。第1ビリオド終了間近、流科大#6清水のシュートがきまる。14-27の流科大13点リードで第1ビリオドが終了した。

【第2ピリオド】

第2ピリオド、甲南大が傾いた流れを引き寄せる。#13武田がシュートを決めると#2岩崎、#22小栗も続いて得点をし、開始3分流科大がタイムアウトを要求。タイムアウト後は#32高田のアシストで#9諫訪のシュートが決まり、息の合った二人のプレーにより流科大も本来のペースを取り戻す。流科大#8松浦の連続得点に、これ以上前半でリードを許せない甲南大は積極的にシュートを打ち、流科大に食らいつく。冷めない展開が続くなか、33-42流科大9点リードで前半を終える。

【第3ピリオド】

後半最初の得点を決めたのは流科大#8松浦。#32高田、#6清水、#9諏訪もそれに続き前半で掴んだペースを甲南大に渡すまいと持ち前のオフェンス力を發揮する。後半開始3分で点差は23点差まで広がってしまう。5分39秒耐えかねた甲南大がタイムアウトを要求。そのような展開でも落ち着きを忘れず、堅実にシュートを打つ甲南大は#24藤井、#22小栗が得点を重ね、流科大との点差を埋めようとするが#12七田の3Pシュートが決まるなど流科大はペースを少しだりとも落とさない。70-47の流科大23点リードで最終ピリオドを迎えることになった。

【第4ピリオド】

甲南大#14景山が最初の得点を決め、甲南大ペースで最終ピリオドが開始する。#24藤井のバスケットカウントにより本格的に流れが傾いた開始二分、流科大がすかさずタイムアウトを要求。一気に攻めたい甲南大は#13武田、#22小栗の得点で徐々に点差を埋めていき、#24藤井の3Pシュートについてに11点差まで縮めた。このまま流れを掴まれることを許さない流科大は攻守ともに積極的に行っていくが甲南大の勢いが止まらず、あつという間に縮まった点差は一桁台となった。ついに甲南大#24藤井のシュートにより同点となったが、ものの一瞬で流科大#9眞説も得点を決める。残り2分25秒甲南大が後半2回目のタイムアウトを4点ビハインドで要求。少しの油断も出来ない両チームに高まる緊張感。ラスト1分、甲南大#24藤井がフリースローを獲得、2本決めたのち、またしても流科大のファウルにより甲南大#13にフリースローが与えられ1本成功、1点差となる。残り17秒、流科大#40大杉のファウルにより獲得した甲南大#13のフリースローが2本決まり、甲南大1点がリード。残り3秒、祈る思いで放たれた流科大#40大杉のゴール下でのシュートが決まり、流科大が1点リードとなった。試合終了間近、懸念にシュートを打った甲南大であったが決まりず、80-79で流科大が勝利した。

主審	高野 晃平	副審	宮里 両 / 北村 仁		戦評	熊谷 優香(関西学連)
記録			関西学生バスケットボール連盟			